

平成28年度事業報告

指定管理事業 204,530,847円

1 文化事業 15,330,755円

「新潟市域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めると共に、歴史を媒介とした市民交流を行うことにより、市民の社会的活動及び文化的活動に寄与する。」という博物館の設置目的を達成するため、以下の各種事業を行った。

(1) 展示運営更新 82,080円

人と水の関りをテーマに新潟市の歴史を紹介。学芸員やボランティアによる展示解説を行った。また、平成26年度に新潟市が購入した福原家文書の中から、新潟奉行所・新潟県庁の役人を務めた福原貞造にかかわる資料を展示した。

(2) 企画展示事業 7,308,072円

市民に身近な題材や市民にとって興味深い資料・地域等をテーマとした計4本の企画展を実施した。

① 「第四国立銀行」展 (2,564,298)

明治7年に新潟県最初の銀行である第四国立銀行が開港場新潟で営業を開始したことを受け、その名を引き継ぐ第四銀行を軸に、新潟の近代の発展やその歩みを紹介した。また会期中には、長岡造形大学の平山育男教授による近代銀行建築と、伊東祐之副館長による銀行設立と地方金融に関しての2本の講演会を実施した。

開催期間 平成28年4月9日～5月29日 44日間

観覧者数 5,067人 (うち有料観覧者 3,600人、無料観覧者 1,467人)

② むかしのくらし展「体と道具」 (1,134,927)

小学生を主な対象に、「かつぐ」「背負う」「打つ」などの道具の使い方に着目して、ガスや電気がなかった時代、手作りの道具や体を上手に使って暮らした知恵や工夫を紹介した。会期中に、天秤棒などを使って運ぶ体験や、杵を使って餅を搗く体験イベントを実施した。

開催期間 平成28年9月10日～11月27日 69日間

観覧者数 8,587人 (無料観覧者)

③ 「近世黎明」展 (2,169,961)

湊町新潟の基礎を築いた堀直寄の越後入部400年を記念し、直寄に関する古文書や絵図、絵画などを展示しながら、直寄の時代の新潟や、新潟湊の発展や新田開発などをはじめとした彼の実績を紹介した。また会期中に、越後明暗流の尺八演奏会や、加茂市史編さん委員の佐藤賢次氏による講演会を実施した。

開催期間 平成28年12月10日～平成29年1月29日 37日間

観覧者数 1,668人 (うち有料観覧者 998人、無料観覧者 670人)

④ 「収藏品展・新収藏品展」 (55,692)

「収藏品展」では、「絵葉書でめぐる日本の名所」をテーマに、新潟県を除く日本各地の温泉・景勝地・お城・名所などの戦前の絵葉書を170点展示紹介した。

「新収藏品展」は、平成 28 年度に新たに収蔵した民俗資料・文書資料・メディア資料・美術資料等の中から、370 点を選び展示した。

開催期間 平成 29 年 2 月 11 日～3 月 26 日 37 日間

観覧者数 3,133 人 (無料観覧者)

(3) 教育普及事業 592,597 円

新潟市の歴史文化への市民の関心や興味のニーズに対応するため、ボランティアなどの人的資源や博物館が有するモノや情報を活用して、歴史に関するさまざまなサービスの提供や活動の提案を行った。そのほか、レファレンス用の開架図書を購入した。

① 体験の広場事業

体験の広場の施設や資料を活用し、学芸員とボランティアスタッフ・外部協力者により、小学生や家族連れ・大人等を対象に各種の体験プログラムを計 80 回実施した。

② 博・学連携事業

小学校・中学校の見学に際し展示解説等を行うほか、職場体験の中学生を受け入れるとともに、地域学習として市内の中学校（内野・中野小屋）へ出向いて授業を行った。また、新潟大学と連携して当館学芸員による寄附講義を開講するとともに、大学生を受入れ、通年および期間集中の館実習を開催した。さらに、同志社大学留学中のドイツチュービンゲン大学の学生をインターンとして受入れた。

③ 講座事業

調査研究事業の成果を公開し、新潟の歴史や文化に関する「学び」や「楽しみ」を提案することを目的として、幅広いニーズに対応するための以下の各種講座を開催した。

・博物館講座 全 10 回、古文書入門講座 全 5 回、館長講座 全 4 回など

④ ボランティア事業

敷地ガイドや常設ガイド、体験の広場のプログラムの実施・補助として活動するボランティアを養成するとともに、その活動を支援した。さらに、ボランティア主催の春の旧新潟税関庁舎塔屋見学会や、夏にはボランティアフェスティバルを実施した。その他ボランティアによる自主事業を多数開催した。

(4) 施設普及事業 1,779,885 円

博物館の活動を広く市民に知ってもらうため、リーフレットや「博物館ニュース」、年報などの出版物を作成し、新聞・雑誌等を通じて館の広報活動を行うとともに、以下の事業を実施し、博物館の利用推進を図った。

① 地域連携事業の実施

博物館近隣の市民団体や国・県などと共催で、新潟の港や下町の PR を目的に以下の事業を開催した。

堀とさくらのコンサート (4/17、雨天により中止)、夕涼みコンサート (8/20)、みなと・しもまち・川まつり (8/21)

② みなとびあファンクラブ

博物館の情報を定期的に会員に向けて提供した。また、会員向けの企画展鑑賞会・まちあるき(上・下大川前めぐり)・館長バスツアー(「阿賀北の文化財に触れる旅」)・館長講演会・学芸員による講座を実施した。

③ G7 新潟農業大臣会合開催記念事業「新潟の米作りの歴史を知ろう」

4月16日～5月15日の会期で、特別パネル展「低湿地の稲作写真」をエントランスで実施したほか、会期中に常設展示の農業に関するコーナーで、計8回のポイント解説を行った。

(5) 調査研究事業 620,054 円

主に企画展示や収蔵品展に関連した調査・研究を実施した。

そのほか、学芸員の専門分野における研究や館活動を通じた資料調査も随時行い、その成果は博物館講座を通じて市民に報告・還元するとともに、主なものを『研究紀要13号』にまとめた。

(6) 資料整理事業 4,948,067 円

寄贈を受けたり、購入したりした歴史・民俗・美術・図書等の資料を長期的に保存・活用することを目的に、以下の事業を行った。

① 保存環境管理

館蔵資料の長期保存のため、展示室やケースなどの展示施設をはじめ、収蔵施設である本館収蔵庫・旧木場小学校、板井保育園等について、各種の保存環境調査や清掃、防虫対策のためのくん蒸など、IPMに則った各種の保存環境管理を行った。

② 資料収集整理

地域の歴史を語る資料を収集するとともに、資料を管理し活用するために、資料の基礎的データや資料の詳細情報を調査・記録した。

2 文化施設管理受託事業 189,200,092 円

歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等管理事業

市民に親しまれる博物館を目指して、利用者へのサービスの向上に努め、歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等の管理運営を行った。なお、旧新潟税関庁舎は耐震工事のため平成28年6月から休館とした。

(1) 歴史博物館管理事業

- ① 博物館本館（常設展示室、企画展示室、ミュージアムシアター、体験の広場、セミナー室、情報ライブラリー等）
- ② 旧第四銀行住吉町支店（応接室、会議室、日本間）
- ③ 屋外施設（広場、堀、園路等）

(2) 旧新潟税関庁舎等管理事業

- ① 旧新潟税関庁舎
- ② 史跡（石段、石積み、石庫等）

(3) 信濃川左岸緑地管理事業

※ 平成28年度歴史博物館入館者数 93,652 人